

令和3年度 第4回地方創生推進会議 要録

日 時：令和3年9月28日（火） 18：25～19：30

場 所：八幡防災センター 防災研修室

出席者：（委員）井俣 潤、小池 敏、出崎 善久、兼山 吉枝、小倉 誠、山内 正文
佐藤 まり、稻葉 光紀

（事務局）河合部長、永瀬課長、上村

欠席者：青木副市長、松山 誠美、粥川 和雄

傍聴者：なし

1. 開会

永瀬課長により開会

2. 挨拶

井俣会長より挨拶

河合部長より挨拶

3. 協議事項

（進行を井俣会長に交代）

・第2期郡上市まち・ひと・しごと創生総合戦略で設定したKPIの進捗状況について

（説明）

事務局①：（資料をもとに説明）

改訂前の指標での令和2年度の実績値、目標達成率、成果・評価、分析（案）である。以下、特記事項のみ記載。

戦略1：特にコロナ禍の影響が大きい観光関係の項目については、KPIの見直しが必要であり、今年度の改訂で対応済み。

農業関係は概ね達成済みのため、今年度の改訂でより高い目標値に対応済み。

戦略2：コロナ禍の影響が大きい項目で実績0（ゼロ）というものもあるが、コロナが落ち着いたら実績が上がる見込みであるため、KPIの見直しなし。郡上カンパニープロジェクトの実現事業数は実態に合わせて今年度の改訂で対応済み。

東京都上人会参加者のふるさと寄附件数は、達成済みであることとふるさと寄附全体の件数も年々増加していることから、より高い目標値への見直し検討が必要。

戦略3：未満児保育の提供施設数は達成済みではあるが、継続維持することが重要であると考えるため、KPIの見直しなし。

デュアルシステムに参加する企業数は目標値の倍以上の実績で達成済みで

あることからより高い目標値への見直し検討が必要。

戦略4：バス・鉄道が不便だと感じる人の割合は達成済みであり、今年度の改訂でより高い目標値に対応済み。

CATVネットワークインフラの項目と健康づくりプロジェクト登録グループ数は、概ね達成済みであるため、KPIの見直し検討が必要。

地域医療の確保と充実の項目は、達成見込みと達成済みであるが、継続維持することが重要であると考えるため、KPIの見直しなし。

温室効果ガスの排出削減と循環型社会の構築の項目は、今年度の改訂でKPIの見直し対応済み。

戦略5：小さな拠点とネットワークの推進の項目は、これから本格的に動き出し増加見込みであることからKPIの見直しなし。

(意見等)

委員①：ご意見やご質問はないか。今年度の会議は今日で一区切りとなることからそれぞれの立場で全員からご意見を伺いたい。

委員②：コロナはワクチン接種が進んで感染者数が減って来ても予防が必要であるという専門家の意見が出ているので、マスクなしや観光客がどんどん来るのとは違う。afterコロナではなくwithコロナで考えなければならない。今後の状況は誰も分からないので、コロナが払拭されたらという条件でKPIを評価することは難しいと思う。

委員③：コロナの影響は観光業界には大変大きく、本来であれば令和3年度には達成している（したい）目標値である。

これまでインバウンド中心であったが、観光連盟が中心となり、ウインタースポーツやアクティビティに力を入れ、日帰りではなく宿泊して地域を周遊してもらう、マイクロツーリズムに取り組んでいる。

7月後半の3連休から8月前半の3連休までは非常に多くの人が動いていた。お盆の雨が終わると、また動き出し、今も動いている。

お客様の行動を見てみると、遠出ができないし、ここに来たので何かお金を使いたいという消費行動で客単価がここ1か月で上がっている。PayPayの利用者も多い。

緊急事態宣言が解除されて、これからスキー場のシーズンとなる。感染対策は個々にしっかりやっていると思うので、期待したい。

KPIのリピーター率と満足度は重視しないといけないと思うし、もう少し大きな目標を作ってもよいかなと思う。

今後、インバウンドのお客様をもてなす体制が整っているかは課題であると思う。

11月の紅葉シーズンの動向を見て、来年の様子が少し分かると思うので、郡上全体で観光客を囲い込む戦略を今、観光連盟で検討している。外貨を稼がない地域は回っていかない。

市内の飲食店は、地元の人が動かなくなったので、ランチは営業するが夜は閉め

ているところが多いと聞く。地元の人が動かなくなったというのは、消費行動が変わってきたのではないかと思う。今後、県外移動が可能となれば、人は動きたくなるので、withコロナの政策も必要であると思う。

木材価格は下落しているのか？

→事務局②：今は木材単価が上がっていると聞いたが、KPIの進捗の成果・評価は令和2年の状態を記載している。

委員④：目標値は令和6年度で期間がまだある令和2年度の実績、そして、コロナの影響を受けている項目が多くあり、今後どうなるか分からぬ状況で、令和2年度の達成状況の数字をどう評価したらよいかよく分からぬ。今後も達成率や進捗状況を評価していく機会があるのか。

市内の岐阜県ワークライフバランスエクセルント企業数は、個人的にはもう少し高い目標値にしてもよいのではないかと思った。

→事務局②：評価のタイミングは毎年ある。今回は令和2年策定時のKPIでの評価となるが、来年度からは今年度の改訂後のKPIでの評価となる。

→事務局③：令和6年度の目標値を初年度に評価することは難しく、累計の状態と単年度の進捗を確認していただく場として進めていきたい。そして、最終年度を終えた段階で初めて評価となると思う。

ワークライフバランスエクセルント企業数は、企業にとってもメリットのあることだと思うので、目標値を超えるような努力をしていきたいと思っている。

委員⑤：100年前のスペイン風邪が今のインフルエンザと考えると、確実にwithコロナになっていく。

コロナがきっかけとなって見直されたこともある。ケーブルテレビの関係では、テレビの加入数は減少しているが、インターネットの加入数は同じカーブで減少していない。これはコロナがきっかけであるという認識をしている。他にも都会から田舎への移住が増えるということなどもあると思うので、きっかけを逃さない施策を進めていくとよいのではないかという感想。

→委員①：個人的な質問になるが、4K・8Kテレビ普及率が上がると郡上市にとって良いことがあるのか。

→委員⑤：光化整備をする前は4K・8Kは見えなかつたこともあり、おそらく、インフラとして便利にしていく意味ではないかと思う。

委員⑥：ファミリーサポートセンターの提供会員数のところで、提供会員は登録会員ということか？お預かりする側の会員の数か？

→事務局③：文脈からお預かりする側の会員の数。

→委員⑥：平成30年度の419人から令和2年度は365人に減っている。今後も減少していくことが予想され、500人の目標は大変であるという感想。

365人の提供会員数のうち、実際に活動されている人は少ないと思うので、この数字から見て環境が整っているかの評価は難しいと思う。

何人の方をお預かりしての実際の利用者の数の方が知りたい。

→事務局③：ご指摘の通り登録会員は、活動していない方も含まれていることもあると思う。場合によっては、臨時でお願いする時のための登録という趣旨もあると

思うので、活動している人のみということは難しいと考える。そうした際に、次に考えられることとして、利用者数もKPIの手法であると思う。総合戦略と対になっている総合計画でも指標を設けているので、そちらも確認をしつつ、次の機会には利用件数も指標として検討したい。

安易に目標値を下げるとはしたくないと考えている。あくまでも目標値に向かって政策を作っていくことを前提に考えていかなければならないと思っている。どこかのタイミングで目標値の見直しは行うが、仮に下げるとしても相応の理由をもって下げる取り組みはする予定である。

委員⑦：少年スポーツ団体の加入率はクラブチームのことか？

→事務局②：そうである。

→委員⑦：スポーツ団体の加入率が増えてくると合宿や大会の誘致件数が増える繋がりなのかなと思う。今までの部活動の形式は、少子化で継続することが難しく、合同チームを作っている状況であり、スポーツコミュニケーションに動いてもらい、郡上市中から生徒を集めてクラブ化する構想もある。そういう動きの中で、生涯スポーツを盛んにして、中学校の部活動をクラブ化して取り組みながら、試合や合宿が盛り上がっていくとよいと思った。

コロナによって数字が上がっている項目も下がっている項目もある。達成率の低い項目をある意味、伸びしろがあるとみるのか、ギリギリの線と見るのか、達成率が高いものはこれから頑張っていけるのかの見方が大切であり、いろいろ分析して見直し等の検討を令和2年度から行っているのが大事なことではないかと思った。

委員①：商工会の立場から、商売なのでコロナ禍で人と人が出会うことがなかなか難しい状況にある中では、ほぼ事業は中止となり、達成率もゼロとなっている。ビジネスマッチングもこれまでとは違った手法の検討はしている。

郡上市内はコロナによる廃業が少ないが、郡上市や国などの補助で持ちこたえているのではないか。ただし、3年目に入ると辛い事業者も多いと思う。

商工会員が減るのは廃業や事業主が亡くなられての理由である。最近は創業も多いので、会員数は微減である。補助金や商品券の影響で、一度辞めた方が、もう一度会員になる方もいる。

前回第4波が終わった後、町なかの飲み屋のお客さんは、一時期には増えたが少し経つとまた減ってきたということがあった。全般的に飲み屋に行かなくなつたという変化もあるのではないか。コロナが明けたらお客様が来るという状況になるまでには時間もかかるし、難しいのではないかと思っている。withコロナを考えた施策が必要である。

イベントがないと地域の活性化に繋がらない。できるかできないかは分からぬが、できる方向で何か考えることが大切ではないか。

委員⑧：農業の関係では、7月から肥料代が上がり、10月から種代が上がり、米の売渡価格は下がり、夏場の温暖化の影響の日焼けや毎年の大雨で作物に被害が出て、といった暗い話題が多く厳しい。持続可能な農業経営と集落の維持のためにご支援をお願いしたい。

大和の道の駅は客単価が上がったというお話を聞いたが、和良の道の駅では物が売れない状況である。道の駅に目的なく来ている人も多いので、市内周遊してもらえるように、道の駅同士で情報交換をしてもらいたい。

コロナで大人も我慢しているが、子どもたちは、学校行事等が制限され我慢していることが多く、可哀想な思いをしている。なんとか with コロナの中で、どうしたら少しでも楽しい学校生活が送れるかを皆さん協力で考えていけたらと思う。

4. その他

事務局①：委員の任期が 12 月 11 日まであり、次期委員については選出団体に相談させていただく。

5. 閉会 兼山副会長

(終了 19 時 30 分)